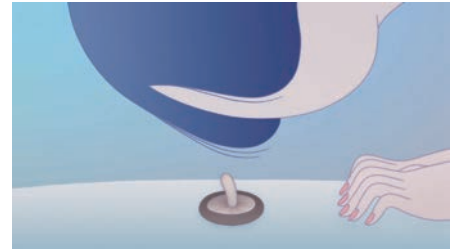


2月22日、カンヌ・ベネチアと並ぶ世界三大映画祭の一つである、ベルリン国際映画祭の短編部門で、本市出身で令和3年度に市の文化賞を受賞した、水尻自子監督のアニメーション作品「普通の生活」が、最高賞に次ぐ「銀熊賞」を受賞しました。

普通の生活

毎日くり返す普通の生活。重ねていく一瞬の連続はひとつも同じものがなくすべてが変化し揺らいでいく。物事に触れた瞬間、過去にも未来にもどこにも存在しない場所へも行くことができる人間の意識。不確かで揺らぎ続ける世界の中で、今この現実だけに存在する身体が何かに触れ合ったときの感触だけが「今」として認識できる。その瞬間が愛おしい。



©Miyu Productions, New Deer



プロフィール／水尻 自子 監督

昭和59年生まれ。十和田市出身。身体の一部や日常的なモチーフで感性的に表現するアニメーションを制作している。短編作品を発表する傍ら、ミュージックビデオや広告、展示映像などの制作を手がけるなどして活動。短編作品は国内外のフェスティバルで上映・受賞し評価を得ている。令和3年制作の「不安な体」は第74回カンヌ映画祭監督週間コンペティションでプレミア上映後、15の国際賞を受賞。

市では、市役所で懸垂幕の掲揚や、授賞式のビデオメッセージなどの放映を行い、祝意を表明しました。

詳しくは、十和田市ブログをご覧ください▶



Part18



北里大学獣医学部動物資源科学科「細胞分子機能学研究室」です！

〒北里大学獣医学部十和田キャンパス ☎0176-23-4371 (代表)

私たちは、微生物の機能を解明することで、動物とヒトの健康に貢献することを目指しています。研究室では、さまざまな動物の腸内細菌を調べたり、ヨーグルトに用いられる乳酸菌やビフィズス菌の研究を行ったりしています。今回は、研究室での取り組みの一部を紹介します。

1 動物の赤ちゃんの腸内細菌に関する研究

ヒトの赤ちゃんでは、母乳を飲むことでおなかの中のビフィズス菌が増え、赤ちゃんの健康を守ってくれます。動物の赤ちゃんも母乳を飲んで大きくなりますが、どのような腸内細菌が赤ちゃんを守っているかよく分かっていません。

私たちの研究室では、ウマ、イヌ、ラットなどを対象として、それぞれの動物の赤ちゃんに特有な腸内細菌を調べています。動物も赤ちゃんの時は病気にかかりやすいですが、この時期に赤ちゃんを守ってくれる腸内細菌を見つけることで、動物の健康維持・生産性の向上に貢献したいと考えています。

▼腸内細菌の分離・培養操作



▲ウマの腸内細菌を研究している学生

2 ヨーグルト乳酸菌の研究

ヨーグルトは、ブルガリア菌とサーモフィラス菌という2種類の乳酸菌で、乳を発酵することにより製造されます。2つの乳酸菌は共生関係にあり、お互いに必要な物質のやり取りを行いながら、乳中で増殖していきます。

私たちの研究室では、特にサーモフィラス菌の持つヨーグルトの発酵速度を向上させるメカニズムに注目し、より効率的なヨーグルトの製造が可能になるよう研究を行っています。



▲研究室で作ったヨーグルト